正社員0.88倍高水準

県内11月の求人倍率

神奈川労働局が26日発表した県内11月の有効求人倍率（季節調整値）は1・19倍だった。前月から0・02ポイント下落したものの、24カ月連続で1倍台を維持した。

正社員の有効求人倍率は0・88倍と前月から0・02ポイント、前年同月からは0・14ポイントそれぞれ伸びた。倍率は6カ月連続で上昇し、集計を始めた2006年4月以降で最も高い水準だった。

宿泊業やサービス業など、これまでパートの募集が多かった業種でも正社員の求人が増えているようだ。産業別の正確なデータはないが「卸売業関連などでも正社員の求人が増加傾向にある」（労働局）という。

前月に比べて有効求職者数が増え、有効求人数が減ったため有効求人倍率は低下した。ただ「求人の減少は一時的なもので、大きな傾向として求人は今後も増えていく」（同）見込みだ。

パートよりも正社員を増やした方がよい」と労働局が働きかけていることもあり、正社員の需要は今後も強まる可能性がある。

横浜港輸出額15%増 11月

横浜税関がまとめた11月の貿易速報によると、横浜港の輸出額は前年同月比15・3%増の6158億円と7カ月連続で前年を上回った。中国向けのフラットパネルディスプレー製造用機器やロシア向けの自動車などの輸出が伸びた。

主要品目ではロシアや中国向けが伸び6・7%増の2・2%増の3火力発電所ビン用部品がーシアや、建ンジンの需要国向けが拡大車部品はインタイ向けが伸%増の28

地方の

地域

訪日客に人絶景を掘り起一般財団法人化センター（は自治体向けで空撮する共めた。農山漁ドローンなどグルで撮影、るネット発る。訪日客は

つ・む・ぐ

横浜にママ友交流カフェ

孤育てやめ社会参加を

NPO法人こまちぷらす代表

森　祐美子さん

もり・ゆみこ　1982年横浜市生まれ。慶応義塾大学総合政策学部卒。趣味は家族で登山。今夏は山梨県の瑞牆山に登った。

公園や保育園では「ママ友」同士が悩みを相談しあう風景が見られるが、室内でゆっくり座ってくつろぎながらとなると場所は限られる。NPO法人こまちぷらすの代表・森祐美子（34）は横浜市戸塚区に意見交換できるカフェを設置。孤立してしまう「孤育て」をなくそうと子育て世代の社会参加を促す取り組みも進めている。

戸塚駅から歩いて7分ほど、マンションの2階にある「こまちカフェ」。靴を脱いで上がるとローテーブルと遊具がそろう。

バリバリのキャリアパーソンだった。学生時代は新潟県で街づくりに関わり、卒業後はトヨタ自動車に入社。すぐに中国の営業担当になり、物流網の「カイゼン」に向けて現地の事業者との交渉に携わった。

3年目に子どもができて生活は一変する。仕事に例えると「入社翌日に先輩も上司もおらず、目の前には言葉の通じない現地人だけ」がいるような状況だったという。交流サイト（SNS）を見ると、周りは子育てがうまくできているように見える。自信をなくしていった。

転機は戸塚に子育て施設をつくるので意見をほしい、という内容の1枚のチラシだった。20人ほどが集まる会場で自分の意見を話すと、なにかが満たされていくのがわかった。「子育て中に社会と関わることの大切さに気づいた」

2012年、ママ友に声をかけて子育ての課題解決を探る取り組みとして「こまちぷらす」を始めた。カフェを平日営業に切り替えようというタイミングで、運営について内部で意見が割れた。「子育て世代の負担を少なくしないと」「飲食店として運営できないと続けられない」。壁にぶつかった。スタッフは半数がやめた。

「みんなの意見を聞こう」として八方美人的に振る舞ってしまったのが原因」と悔やむ。今は月に1度店を休み、ミーティングを開いて運営の議論をする時間を設けるなどコミュニケーションの機会を充実させる。

事業の持続的な発展に向け、地域や社会問題に関わる「担い手」育成のセミナーなども定期的に開く。「子育て世代の『何かやりたい』という思いを形にできる手伝いを続けていく」考えだ。

＝敬称略

（松川文平）

価格のカフェなどが予算不足から廃止になるのを見てきた。「人やモノへの投資をしないと続かない。適正価格の利益を原資に新しく事業も始められる」

カフェのメニューの価格設定は一般的なカフェと同じか少し高め。重視しているのは事業の継続性だ。森も2人の子どもを持つ母親として、行政が運営する低

神奈川

横浜支局 045-201-2551
川崎支局 044-222-7793